

# 睡眠時無呼吸症候群(SAS) 事前に見分けるには

北陸自動車道で3日未明に発生した高速バスの死亡事故で、原因の一つとされているのが睡眠時無呼吸症候群(SAS)だ。25日に前橋地裁(群馬県)で判決があり、2012年に関越自動車道で発生した高速ツアーバス事故の惨事も、同症候群と診断されたドライバーが引き起こした。自覚症状が乏しく、運転中に突如、意識をなくしてまっつのがSASの怖さ。事前に見分けることはできるのか。

■ NPO法人ヘルスケアネットワーク(OCHI)によると、SASとは、睡眠中に断続的に無呼吸を繰り返した結果、まとまった睡眠をとれずに日中に強烈な眠気に襲われる睡眠障害だ。ドライバーの居眠り運転に加え、呼吸の停止が血液中の酸素濃度を低くし、高血圧や脳卒中といった病魔を進行させる。

「簡単な方法で検査できる」と話すのは、OCHIの作本貞子副理事長。同団体は2004年以降、大阪府トラック協会よりSAS検査を受託、06年度からは近畿バス・トラック(OCHI)でデータを分析する。さらに受診者が記入した自己診断をベースに基本、専門医がA～Dまで判定。「D・D」の人は医療機関の受診に該当し、D+は重症。機器の貸し出しや判定までに掛かる経費だが、法人向け価格は1人5000円。ただし、3人まで連続で使えるという。近畿バス団体協議会の加盟社は運輸事業振興助成交付金の対象事業で25000円に。作本副理事長は「実際に判定が出るまで約2週間。本人用のほか、会社向けに受診者を一覧にした報告書を送ると説明する。さらに「病院での精密検査が必要になれば、紹介状をつける」と、フォローアップにも力を入れる。

## 肥満、運動不足に注意

### 血中酸素濃度など簡易調査も

「肥満と運動不足が原因(作本副理事長)と、職業ドライバーならではの不規則性が起因すると見ている。基本的に①肥満②首が太く短く気道が狭い③筋肉が弱い中高年の男性④SASの確率が高い。家族などにいびきがうるさいと指摘されたら、昼間に無性に眠くなったりするのも、危険のサインだ。精密検査後の治療はシンプル。CPAP(持続陽圧呼吸)と言って、睡眠時に鼻マスクをつけて空気を送り込んで気道を広げていく方法がそれだ。月に一度の通院が必要だが「若い時のように熟睡でき、朝も爽快だ」と、感激する人もいる」と作本副理事長。



小型測定器を手首と指先に装着し実践する作本さん

悲劇を生んだバス事故で焦点が当たるSAS対策。法人タクシーでOCHIの簡易検査を導入するのは大阪、名古屋、福岡の計3事業者と少なからぬ。バスやトラックの協賛では12年度、約900人の運転者が検査に臨んで、うち29%がD判定(D+含む)だった。作本副理事長は、関越道の高速ツアーバス事故の地裁判決をめぐる報道で「眠気を感じて運転したことが『プロドライバーであるかぎり許されない』と出ていたが、そこが重要」とし、行政・運輸業界でのSAS対策が急務だと指摘する。